

# 教えの庭から

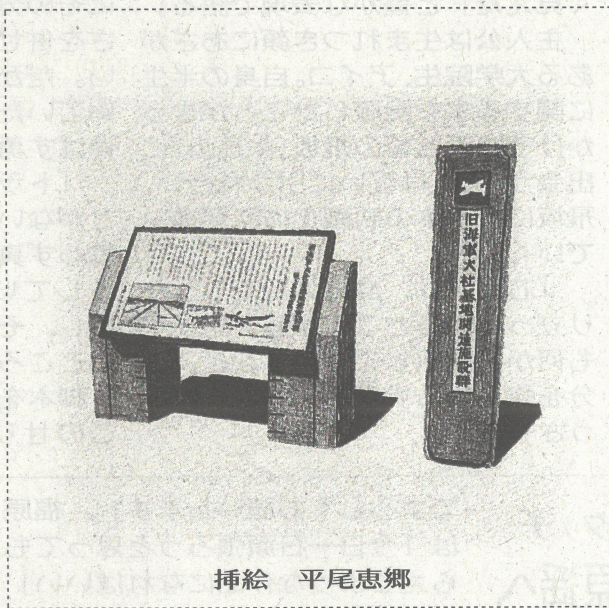
ロシア軍は、ウクライナ東部や南部の軍事施設はもとより、病院や学校など民間施設をも攻撃し破壊して、市民を虐殺しています。この映像を半年以上見せられて、何とか早くこの戦争が終結してくれないかと、これも願っています。

昭和20(1945)年3月、出西地区(出雲市斐川町)の新川廃川地を中心に、海軍航空基地「大社基地」が急造され、6月には完成しました。仁照寺は、ほぼ東西にのびる大社基地・滑走路の東側端から南に100mほど先の小山(船子山)にあります。今でも境内に防空壕が残っています。この基地に関する母の手記がありました。それには、「私の寺には電気関係の工事をする設営

## 一刻も早く終戦を

出雲市斐川町・仁照寺住職 江角 弘道

隊の人が、3月に15人ばかりが来て泊まっています。夏は蚊が刺さるので本堂の欄間に釘を打ちつけ15畳ほどの蚊帳を吊って寝ていました。軍用機が離着陸し、砂塵を巻き上げていました。6月頃になってからは飛行機が頻りに飛んで来るようになったと思います。



挿絵 平尾恵郷

る人であった、と思っが、私の寺もその場所の一つです。お貸ししていた部屋つでした。教員をしていたは本堂の西の8畳と6畳と和尚はその授業を見ていた4畳の部屋でしたが、隊員した。は朝出かけていって夜に帰基地の建設は、最初に直つて来て寝るだけのもの江角から新川に引き込み線が敷かれ、その後、滑走路

が造られました。未完成ですが、その後のことはわかりません(江角無為子13回忌追悼文集「感謝」より)

この空襲は、軍関係者に衝撃を与えました。近く予定される第2次空襲に備え飛行隊本部を、山ひとつ隔てた阿宮国民学校に移し、新たに本部としました。また、滑走路に近い求院地区の住民に対しては疎開するように勧告されたそうです(横原吉則・岡実智子著「川の中の飛行場」より)。その後、8月15日に終戦を迎えたため、大社基地にたいする攻撃はありませんでした。この戦争が長引いていたら、ウクライナ攻撃で見ると、大社基地は破壊され、出西国民学校など学校施設や直江駅、病院、商店等のあらゆる施設が破壊された。近頃の不動堂へと運ばれ安置されました。どこから来た兵隊さんであったのかわかりませんが、遺族が引き取りに来られませんでした。葬儀は満蔵寺あたりイナでの戦争を一刻も早く終結してほしい。

終戦直前の7月28日に、アメリカの飛行機が飛んで来て銃撃を加えてきました。その時にはこの寺から見ていましたが、搭乗員の頭が見えるくらいの低空で飛んでいました。寺の裏には防空壕が掘ってあり、私たちはそこにすばやく避難をしました。

その日の夕方のことです。銃弾に倒れた3人の若い兵士の遺体が私の寺の本堂へと担ぎこまれて来ました。和尚が本堂で懇ろにお経を上げたあと、遺体はその夜、近くの不動堂へと運ばれ安置されました。どこから来た兵隊さんであったのかわかりませんが、遺族が引き取りに来られませんでした。葬儀は満蔵寺あたりイナでの戦争を一刻も早く終結してほしい。